

# 風土に育まれた 日本の底力

垣見裕司  
 Kakimi Yuji



垣見裕司（かきみ ゆうじ）。東京都千代田区麹町生まれ。成蹊大学工学部経営工学科卒業後、垣見油化株式会社に入社。石油ガス部長、取締役石油部長、常務取締役を経て、94年、代表取締役専務に就任。01～02年、09年エネ庁研究会委員等も務める。96年、業界に先駆けて開設したホームページは、アクセス数累計300万件を超える人気。毎月、鋭い切り口と明快な論旨で業界の今を伝える。特にガソリン税問題では、1日3000件のヒット数を誇った。高校時代は硬式庭球でインターハイ出場。大学時代には中高の監督を務める。趣味はゴルフ、囲碁（七段）

早いもので東日本大震災からもう一年。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。私は震災以来4月、6月、8月、10月と4度被災地入りし、心ばかりの支援をして来ましたが、瓦礫の撤去と仮設住宅が一応出来た以外、1年たっても復興はほとんど進んでいない現状に、本当に心が痛みます。

従って私は被災地の方に「頑張れ」とか「元気をだせ」などは、とても言えません。今回の震災は本当に不幸な出来事です。しかし長い長い歴史の中で、そういう苦難を日本人は世代を通して乗り越えてきたので、世界に冠たる勤勉さや、秩序や良識ある国民性を育てて

来たのは、災害も含めた大自然ではないかと思うのです。世界との比較においては、決して恵まれた国土とは言えない日本が、更にあの太平洋戦争では多くの主要都市が焼け野原になったにも関わらず、世界に例を見ない奇跡的な復興を遂げただけでなく、更に近年まで、世界第二位の経済大国になれたのは何故なのか？今月は、お読み頂くだけで、自信と誇りの持てるテーマに挑戦してみたいと思います。

業界人である前に一人の社会人、そして一人の日本人として、本テーマをお許し頂いた編集部の皆様にも深く感謝する次第です。

## 国土と10の弱点

昨春秋、業界外の講演先でまたま頂いた資料に、自虐的な表現で、日本の国土と他国の国土との比較が載っていました。本来ならその引用元をしっかりと記載すべきと思いますが、あえて某大学客員教授のレポートという表現でお許し頂きたいと思えます。（以下引用）

- ① 国土の形状が細長く海岸線が複雑である。
- ② 主要部分が4島に分断されて

- ③ 国土全体をかなりの高さの脊梁（せきりょう）山脈が縦貫し、国土を南北に分断している。
- ④ 平野が少なく分断されている。
- ⑤ 河川が急流でその氾濫原にすべての都市が存在する。
- ⑥ 大地震が全土で起こりうる。
- ⑦ 都市の多くが軟弱地盤の上に存在する。
- ⑧ 国土の70%を占める山岳地帯は、地質が複雑な岩種で構成され崩落し易い。
- ⑨ 台風の通り道にあり常に強風と豪雨の危険にある。
- ⑩ 国土の60%が積雪寒冷地帯であり、豪雪地帯にも大都市が存在する。

## 四季のある日本の国土

日本には四季があります。そして本当に寒い網走や知床、稚内から、夏は本当に暑い沖縄。東京の蒸し暑さと不快指数は、きつと沖縄にも負けていません。でもそういう暑い夏があるから、太陽のお陰で実りがあり、それを過ごしやすい秋に収穫するからこそ、厳しい冬が乗り切れるのです。今は文明のお陰で、雨風をしのげる場所や暖房は一応あり、餓死や凍死はまれですが、戦前までは、その厳しい状態は当たり前だったでしょう。

従って「寒い」そして「食料の不足する冬等をどう生きるか」。これを取り切るための勤勉さは、日本人の遺伝子に組み込まれているのではないのでしょうか。「ありとキリギリス」ではありませんが、その四季が日本人の勤勉さを生んだのだと思えます。

## 村社会と島国根性

日本人気質を表現する言葉に「村社会」や「島国根性」等があります。私は、一人で村を離れ東京で暮らしたい人の自由が許されるなら、村社会も島国根性も嫌いではありません。お互い助け合うことは、厳しい自然環境の中で生きていくためには、必然だったのです。

今回の震災でも、一見不思議なのは、東京の一等地の赤坂プリンスホテルも避難所となりま

## それでも私は日本が好き

我々にとっては常識の日本の国土も、フランス、ドイツ、アメリカ（特に東部）、中国の中原（北京から上海あたり）では、このどれ一つも該当しない。そしてこの悪条件は、重なりあいにより更に複雑な問題となる。例えば河川の流域面積が小さく、集中豪雨でよく氾濫するので軟弱地盤が多いが、そこに高層建築をする際は、長い杭が必要となりコストが多分に掛り、更に大地震が襲う可能性が高い等だ。（引用終り）

これを読んだ時の私の感想は、「確かにそうかもしれないが、悪いところを並べたてて日本をけなすなら、我々には国外脱出という自由が許されているのだから、安全な外国の平野にでもいけばいいではないか」と怒りさえ覚えたほどです。

しかし私はその某客員教授に聞きたいと思います。「日本で地震や台風の水害で亡くなる確率より、治安が悪い

外国では、通り魔に殺されるリスクの方がきつと多いことをあなたは忘れていませんか？」マイナス思考からは、何も生まれません。いや生まれなければなら良いのですが、暗い後ろ向きな考えの人が集まってくるのは必定です。「類は友を呼ぶ」とはよく言ったもので、デフレスパイラルならぬ、負の連鎖が発生してしまい、究極的には自殺なんてことになりかねません。

あなたは日本が好きですか？ 答えは勿論「はい」です。私は今まで20数カ国を訪問したことがありますが、間違いなく日本が一番好きだと自信を持って言うことが出来ます。

ならば悪いところを並べるのではなく、日本を試練の多い国土ともに愛し、日本に生まれたことに感謝して、住まわせてもらうというくらいな謙虚な気持ちで、日本の良いところやその厳しい自然の中から生まれる恩恵に感謝し、その自然とともに前向き生きて行くことを考えたいと思えます。

したが、何故かそこが満杯にならないのです。私は最初、情報不足なのかと思いましたが、それは違いました。被災地では仮設住宅すらないので、故郷を愛し、村社会を愛し、そこから離れたくない、一緒に暮らしたいと思う気持ちが赤坂プリンスに住む魅力より勝っていたのです。

## 村社会が生んだ 礼節や秩序

また「村社会」こそが、日本の秩序や礼儀、節操、作法を生んだのではないかと思います。

明治以前までさかのぼるのをお許し頂けるなら、日本人の礼節には、深く武士道精神が関わっていると思います。この武士道のすごいところは、武家のみならず、町人たちにも愛され、十分浸透していたことです。

幕末にペリーが日本に来て驚いたことは多々あるようですが、身なりは貧しいにもかかわらず、町並みはきちんと整理され、清潔に保たれている。歴史のあるフランスでさえもトイレがなかった時代に、日本には廁

があり、更にその糞尿が田畑の肥やしとして多くがリサイクルされている。

更に貧しい町人でも街角で書物を読んでいる。要するに一般庶民でも志ある人は、読み書きができた。当時の諸外国に比べ識字率が高く、また武士は勿論、一般町民に至るまで、大変礼儀正しかったのです。

年末のNHKで「坂の上の雲」という、大河ドラマよりお金が掛っているのではないかとと思われる大作番組がありました。世界的には誠に小さな国が、長年の鎖国により、ガラパゴス状態で明治維新を迎えたにも関わらず、明治38年に大ロシア帝国と戦争をして何とか勝つまでのお話です。

一歩間違えば、日本も清国のように欧米列強に実質支配されていたもおおしくなかった訳ですが、それは、明治以前からの日本人の知的レベルの高さや勤勉さが、あるいは我慢強さ等があったからこそ、ロシア帝国に勝つ。微妙な表現で言えば、有色人種が白色人種に勝ち、その支配が

ら免れるという当時としての奇跡が生まれたのだと思います。

今回の大震災で、日本に來た海外の援助隊が、それこそ三日三晩、飲まず食わずの市民でも、援助物資の配給にはちゃんと並んで待つている姿を見て感動したそうですが、我々普通の日本人なら当たり前のことなので、そういう日本に暮らしていることに、もう一度誇りをもつてよいのではないかと思います。

## 自然を恐れ崇める 多神教

地震、雷（台風）、火事、親父は、日本人にとって怖いもの代名詞です。最後の親父は、前述の「村社会」の最小単位である家の絶対的権限を持った家長の存在と言えるでしょう。

日本人は、自然を絶対のものとして恐れ崇めてきました。今こそ自然と共存ですが、昔は自然から恵みを頂いて来たから、恐れ多いに近い感情だったでしょう。だから山の神、海の神に始まり、あらゆるものに神様がいて、崇め奉り、自然の

猛威は「神の怒り」として真摯に受け入れて生きて来たのではないかと思います。

それに対し欧米の発想というか、その宗教の多くは一神教です。それだけならまだ良いのですが、他を認めない「排他教」の概念もあるので始末が悪く、当然、宗教研戦争となります。

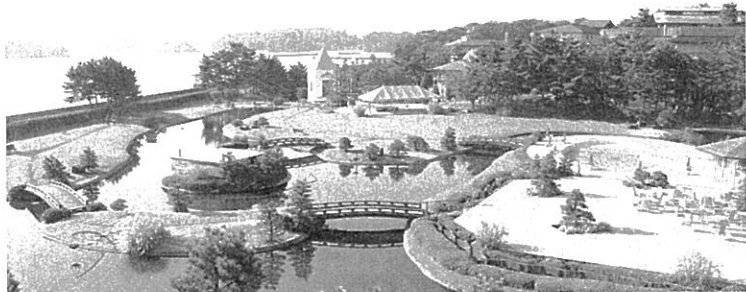
その意味では、世界的にもヒットした宮崎駿監督のアニメ「千と千尋の神隠し」は、八百万（やおよろず）数多（あまた）の神々が、お風呂に入りに来る宿が舞台ですが、これが一神教（排他教）の世界に受け入れられ、それがもし正しく理解して頂けたのなら、アニメや宮崎駿さんの力は本当に凄いものだと思えました。このアニメも日本が世界に誇れる文化です。

## ハード復興の 基本理念

自然を崇め崇拝して来た日本人ですから、防波堤をより高くするような自然と対峙する発想よりは、戦うのではなく、まず避ける、逃げる。どうしても津

波に追い付かれてしまった時も、風に柳のごとく対応する。具体的には、何度も訪問した被災地ですが、昨年10月に松島を見て「はっ」とこれだと思えました。

地元の方に聞いた話では、松島では多くの島が干渉して津波の威力を打ち消しあったお陰



風に柳のごとく対応する一。いみじくも、被災地の松島が自然との共生文化の大切さを象徴している

で、津波が壁のように押し寄せたのではなく、海面がゆっくり盛り上がり、またスーッと引いて行ったのだそうです。従って、松島のホテル一の坊から見た風景もこの通り。津波の被害など全くなかったようにも見える位です。

あくまで素人の発想で防災関係者の方からは、叱られそうですが、自然と戦ってはいけないような気がします。

## 目覚めた若者たち

「最近の若い者は？」

大人達からは、茶髪でピアスの何もやる気も意欲も夢もない若者とみられていた彼らが、今回の震災をきっかけにボランティアに目覚めたり、また被災地の若者も、家族や仲間を死をきつかけに、震災を乗り越え、生かされた自分に気がつき、自分に与えられた使命を果たすべく立ちあがったと思えるような話を数多く聞きました。

また私がささやかな支援をした陸前高田。そのガソリンスタ

ンドの若者も、彼自身を直接支援した訳ではないのに、彼が東京に來た際、わざわざお礼に立ち寄って頂くなど、私自身、驚かされることもありました。

## 被災地への思いを 行動に

こうして考えると日本人は、天災にしろ、戦災にしろ、その非常に厳しい苦難をバネに成長して来たのだと思います。

戦災では、日本の都市の多くが焼け野原となり、多くの優秀な将来ある若者が戦争で多数亡くなりました。更に某客員教授によれば、全く恵まれないはずの国土ながら、戦災の時も、明治初期同様、外国の優れた商品等の模倣に始まり、その勤勉さと民度の高さで、技術立国日本となり、戦後の復興から、世界第二位の経済大国となり、国民の平均寿命も世界第一位。治安の良さも世界トップクラスの素晴らしい国を作り上げたのです。お叱りを覚悟で申し上げます。あの当時の軍国主義の日本では、世界からいつかは叩かれ

ていたでしょう。従ってあの敗戦なくして、その後の復興や世界第二位の経済大国の実現もなかったのだと思います。

従って今回の震災の被害や苦悩が多ければ多いほど、時間こそ掛るかもしれませんが、その後の被災地の東北や日本は、戦後の復興のようにすばらしい国が必ず出来ると信じています。

もし政府のていたらくで、我々の世代で復興が完成しなくても、子供や孫の世代にこの教訓と素晴らしい日本の実現に禱をつないで行くのが、歴史ある日本人の姿でしょう。

だからその国民性に誇りと自信を持って、被災地のそして日本の復興を信じて、地震の被害を受けなかった我々こそが、被災地を思う気持ちや思いやりを是非行動に代えてゆこうではありませんか。

私が代表を務める東北支援の会では、そのささやかな活動を、また一年続けてみようと思

います。

東北支援の会HP

<http://www.kakimijp/4en.htm>